

六本木ヒルズ・森美術館 15周年記念展 カタストロフと美術のちから展

2018年10月6日(土)ー2019年1月20日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

先行き不透明な混沌とした時代に、アートだからできること

森美術館は、2018年10月6日(土)から2019年1月20日(日)まで、六本木ヒルズ・森美術館15周年を記念して、「カタストロフと美術のちから展」を開催します。

東日本大震災やアメリカ同時多発テロ、リーマンショックなど世界各地で絶えず発生するカタストロフ。多くのアーティストがこのような悲劇的な災禍を主題に、惨事を世に知らしめ、後世に語り継ごうと作品を制作しています。その私的な視点による記録は、マスメディアの客観性を重んじる記録とは異なり、多勢の世論の影に隠れて見えにくくなったもう1つの事実を私たちに提示します。そこにはまた、社会の矛盾や隠蔽された問題の可視化を意図するものや、個人的な喪失や悼みを表現するものもあります。

カタストロフは私たちを絶望に追い込みますが、そこから再起しようとする力は想像力を刺激し、創造の契機となることもまた、事実なのではないでしょうか。東日本大震災以降、国内外の数多くのアーティストが復興・再生への願いを込めて理想や希望を描き、より良い社会のために新しいヴィジョンを提示しようと試みています。

戦争やテロ、難民問題や環境破壊など、危機的な問題が山積する今日において、美術が社会を襲う大惨事や個人的な悲劇とどのように向き合い、私たちが再生を遂げるためにどのような役割を果たすことができるのか。本展は、負を正に転ずる力学としての「美術のちから」について注目し、その可能性を問いかけます。



オノ・ヨーコ
《色を加えるペインティング(難民船)》
2016年
ミクスト・メディア・インスタレーション
サイズ可変
展示風景:「オノ・ヨーコ:インスタレーション・
アンド・パフォーマンス」マケドニア現代美術館、
テッサロニキ、ギリシャ、2016年

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、都木、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

出展アーティスト・プロジェクト ※アーティスト・プロジェクト名/姓のアルファベット順

シヴァ・アフマディ	堀尾貞治	宮本隆司
ミロスワフ・パウカ	ハレド・ホウラニ	オノ・ヨーコ
坂 茂	ホアン・ハイシン	ジョルジュ・ルース
Chim ↑ Pom	HYOGO AID '95 by ART	カテジナ・シェダー
トーマス・デマンド	池田 学	ヴォルフガング・シュテーレ
クリストフ・ドレーガー	アイザック・ジュリアン	ヘルムット・スタラーツ
藤井 光	ヒワ・K	スウーン
畠山直哉	加藤 翼	武田慎平
モナ・ハトゥム	オリバー・ラリック	田中功起
平川恒太	エヴァ&フランコ・マッテス	ジリアン・ウェアリング
トーマス・ヒルシュホーン	宮島達男	米田知子 他

開催概要

展覧会名:カタストロフと美術のちから展

主催:森美術館

企画:近藤建一(森美術館キュレーター)

会期:2018年10月6日(土)ー2019年1月20日(日) **会場:**森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

開館時間:10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料:一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳ー中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円 *表示料に消費税込

*本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く) *スカイデッキへは別途料金がかかります

一般のお問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



Chim ↑ Pom
《REAL TIMES》
2011年
HDビデオ・インスタレーション
11分11秒
所蔵: 森美術館、東京

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、都木、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

本展の特徴

■ 開館15周年に、あらためて問う「美術のちから」

森美術館はこれまで、周年の記念展において、全人類にとって普遍的なテーマを掲げてきました。2003年の開館記念展では「幸福」をテーマにした「ハピネス」展を、10周年を迎えた2013年には「愛」に注目した「LOVE展」を開催しています。15周年を迎える2018年、敢えて「カタストロフ(大惨事)」をテーマに取り上げ、さまざまな問題が山積する今日の国際社会において、美術が果たす役割についてあらためて問い直します。

■ 美術を通して社会と繋がり、変革を目指す作品を紹介

現代美術の1つの特徴に、「社会をより良くする可能性」があります。なかでも、アーティストが社会に介入し、彼らの作品や活動を通して社会に変革をもたらすことを目指す「ソーシャリー・エンゲイジド・アート(SEA)」は、近年日本でも注目を集めています。本展では、オノ・ヨーコや宮島達男による鑑賞者参加型の作品や、「ソーシャリー・エンゲイジド・アート」、社会的メッセージが込められた美術作品の良作を多数紹介し、美術と社会との繋がりについて考察します。

■ 東日本大震災を「風化させない」 震災の記憶を伝える作品を多数紹介

2011年に発生した東日本大震災は、日本社会を大きく変えてしまっただけでなく、日本の現代美術界にも大きな影響を与えました。震災から7年が経過した今日、いまだ復興が思うように進んでいない地域もあり、一方で、私たちの震災体験や記憶は風化しつつある現状があります。本展では、この震災を契機に制作されたChim ↑ Pom、トーマス・デマンド、池田学など約10作家の作品を紹介することで人々の記憶を蘇らせ、議論を再燃させることを目指します。

■ 現代美術のスーパースターから注目の若手作家、日本初公開の作家まで 約40組の作品を展示

現代美術界で最も権威ある祭典、ヴェネチア・ビエンナーレやドクメンタに参加経験を持つトーマス・ヒルシュホーン、モナ・ハトゥム、アイザック・ジュリアン、畠山直哉、宮本隆司といったベテラン作家から、ストリート・アート界のスターであるスウーン、加藤翼や平川恒太など気鋭の若手まで、国内外を問わず幅広い層の作家が参加。さらには、ヒワ・Kやヘルムット・スタラーツなど、日本初公開となる作家も紹介します。

■ 展覧会に先行して「プレ・ディスカッション・シリーズ」を展開

惨事と現代美術の関係を考察するには、実際の事例や経験、言説を含めて考えることが不可欠であると考え、展覧会開催前に「プレ・ディスカッション・シリーズ」と題したトーク・イベントを5回にわたり実施。既に開催された4回のイベントでは、それぞれ「大惨事におけるアートの可能性」、「写真や映像で惨事を表現すること：記録、芸術性、モラル」、「阪神・淡路大震災から20余年：体験とその継承」、「フクシマ2011-2018」をテーマに議論がおこなわれ、7月には「アートかアクティヴィズムか?」をテーマにした第5回を予定しています。外部の有識者、専門家、当事者、アーティストなどを招聘しておこなわれたこれらの議論は、展覧会の一部として会場で紹介されるだけでなく、図録にも掲載されます。また、会期中には議論の総括をおこなうシンポジウムも予定しています。

※これまでのイベントのレポートはこちらからご覧ください。 <https://www.mori.art.museum/jp/news/keyword/cat82/index.html>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、^{たかぎ}都木、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

セクション解説&主な作品

セクションI

セクションIでは、地震、津波などの天災や事故や戦争といった人災から、個人的な悲劇を表現した作品までを幅広く紹介しながら、「美術が惨事をどのように描いてきたのか」に焦点を当てます。惨事を扱った作品と一言で言ってもその手法はさまざま、写実、フィクション、極端な抽象化など多岐に渡ります。また、2008年の世界金融危機を引き起こした現代のグローバル化したバーチャルな資本や、福島原子力発電所事故などに見られる放射能汚染など、目に見えない脅威を可視化する作品も含まれます。惨事を美やユーモアを混じえて表現することができる美術の特性に触れながら、作家が惨状や恐怖をどのように記録・再現し、他者と共有して未来に語り継ごうとしているのかについて考察します。



アイザック・ジュリアン
《プレイタイム》2013年
3チャンネル・HDビデオ・インスタレーション、5.1サラウンドサウンド 64分12秒
Courtesy: Victoria Miro, London



武田慎平
《痕#7二本松城》2012年
ゼラチン・シルバー・プリント 50.8×60 cm
所蔵: アマナコレクション、東京



宮本隆司
《KOBE 1995 After the Earthquake—神戸市長田区》1995年
ゼラチン・シルバー・プリント 51×61 cm
所蔵: 森美術館、東京



ジリアン・ウェアリング
「誰かがあなたに言わせたがっていることじゃなくて、あなたが彼らに言わせてみたいこと」のサインシリーズより 1992-93年
Cプリント、アルミニウム板 44.5×29.7 cm
Courtesy: Maureen Paley, London

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、都木、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

セクション2

セクション2では、破壊から創造を生み出す「美術のちから」を紹介します。大惨事や悲劇は私たちを絶望へと突き落としますが、その一方で惨状が作家の作品制作の契機となることも事実でしょう。アーティストの豊かなイメージーションによって制作された、再生、復興、より良い社会が表現された作品は、私たちに理想の未来について考える想像力を与えます。

美術は、医学と異なり大惨事に対しての即効薬にはならないかもしれませんが、代わりに社会に対する長期的な治療薬となりえるのではないのでしょうか。希望のメッセージを伝達するものや、抑圧に対する団結のためのツールとして機能するもの、チャリティとして経済的な貢献をするもの、傷ついた心を癒すものなど、美術にはさまざまな力があります。このような美術が持つ、負を正に転ずる「ちから」に注目し、その可能性を問いかけます。



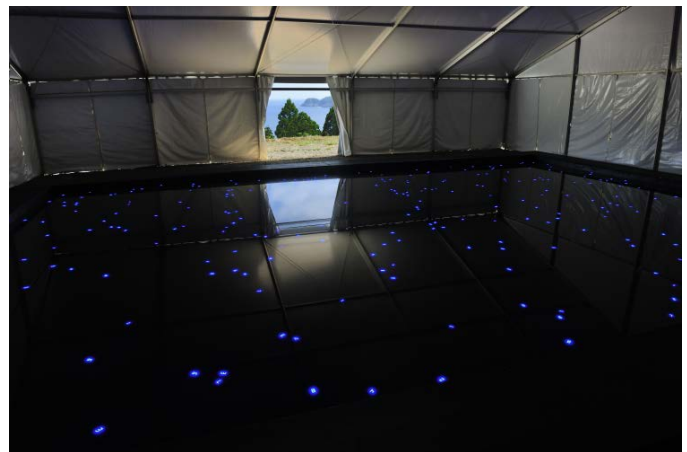
池田 学 《誕生》 2013-16年
 ペン、アクリル・インク、透明水彩、紙、板にマウント
 300×400cm 所蔵：佐賀県立美術館 デジタルアーカイブ：凸版印刷株式会社
 Courtesy: Mizuma Art Gallery, Tokyo / Singapore
 *11月下旬から展示予定



スウーン 《水没した母なる地》 2014年
 ミクスト・メディア・インスタレーション サイズ可変 作家蔵
 展示風景：「スウーン：水没した母なる地」ブルックリン美術館、2014年
 撮影：トッド・シーラー
 *参考図版



加藤 翼 《The Lighthouses - 11.3 PROJECT》 2011年
 プロジェクトの記録写真
 撮影：宮島径 Courtesy: 無人島プロダクション



宮島達男 《時の海 - 東北(2017 石巻)》 2017年
 防水LED、電線、集積回路、水 910×1,270 cm 作家蔵
 展示風景：「リボンアート・フェスティバル」宮城、2017年

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)：津原、^{たかぎ}都木、村田
 Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
 〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル